東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2005年8月19日

感謝することは恵みをさらに豊かにする

親愛なるムスリムの皆様。アッラーは、クルアーンで次のように呼びかけておられます。「だからわれを念じなさい。そうすればわれもあなたがたに就いて考慮するであろう。われに感謝し、恩を忘れてはならない。」（雌牛章第１５２節）アッラーは、私たちを、誉れ高く完成された存在として創造されました。被造物の世界の無限の恵みを、私たちの前に並べてくださいました。私たちに、これらの恵みから益をうけることのできる感覚や能力を備えさせてくださいました。そして、私たちのうちだれが、よりよいことができるかを試されるために、この世界へ送られたのです。この世界では私たちは皆、客なのです。

目をどちらに向けても、そこでアッラーの恵みを見ることができます。また口にするものそれぞれにおいて、アッラーの与えてくださるものを味わっています。呼吸するたびに、アッラーが与えてくださった命を吸い込んでいます。これら全てが私たちのものである、と私たちは知っています。この真実を、私たちの聖なる書、クルアーンは、私たちに次のように示しています。

「あなたがたは思い起さないのか。アッラーは天にあり地にある凡てのものを、あなたがたの用のために供させ、また外面と内面の恩恵を果されたではないか。」（ルクマーン章第２０節）

親愛なる兄弟姉妹の皆様。少しの間、考えてみてください。私たちに与えられた恵みを思い起こしてみてください。それらの恵みが、どこから来るのかを考えてみましょう。
土の、はるか深いところから出てきた木の果実を考えるならば、アッラーはさまざまな局面においてそれを私たちの為に準備されたのです。一滴の水を考えるならば、アッラーはそれを雲から地上へ降ろされ、私たちのコップにまで運ばれたのです。一つの光について考えるならば、アッラーはそれを、天のはるか遠いところにある太陽から、私たちにもたらされたのです。

親愛なるムスリムの皆様。全ての恵みには、感謝と、共にもたらされる責任とがあるのです。感謝するということは、単に口で「神よ、感謝します。」ということではない、ということをよく認識する必要があります。私たちが吸うことのできた空気、命、若さ、豊かさ、知識、それぞれに固有の感謝の仕方が存在します。例えば、ザカートやサダカを与えることは、私たちが手に入れた合法的な富への感謝です。私たちが学んだことをまず実践し、それを他の人にも教えることは、知識への感謝となります。私たちが持っている若さからのエネルギーを正しく、人の為になることのために用いることは、若さへの感謝です。

親愛なる兄弟姉妹の皆様。感謝は、恵みがより豊かになることへの、また恩恵を忘れることは恵みが与えられなくなることへの要因となります。だから、恵みが増やされること、与えられなくなることは、ある意味私たちの行動、振舞いにかかっているのです。偉大なるアッラーは、クルアーンで 「もしあなたがたが感謝するなら、われは必ずあなたがたに（対する恩恵を）増すであろう。だがもし恩恵を忘れるならば、わが懲罰は本当に厳しいものである。」（イブラーヒーム章第７章） とおおせられておられます。

今日のフトバを、預言者ムハンマド（彼の上に平安あれ）が薦められたドゥアーで締めくくりたいと思います。

「アッラーよ、あなたを思い、あなたの恵みに感謝し、あなたにふさわしいイバーダを行なえるよう、私を助けてください。」